



演習場の位置・規模・施設など



平成26年ごろ完成予定

演習場については、新駐屯地の北東の隣接地約92ha(県道奥西川岸本線周辺から夜須町との境界付近)を予定地として計画しています。

現在、用地買収がほぼ完了し、地質調査や測量設計業務を行っており、今後、訓練施設の建設や幹線道路などを造成し、平成26年ごろをめどに完成、本格的な訓練を開始する予定です。

また、現在は構想段階ですが、長さ約300m、幅30mの細長いドーム状の建物内で実弾を使用する「屋内射撃訓練場」や、手りゅう弾、ダイナマイトを使った基本爆破訓練を行う「爆破訓練場」などを建設する予定です。



第50普通科連隊の訓練

訓練名	訓練内容
迫撃砲 縮射弾射撃	模擬弾(訓練用砲弾)での射撃動作および着弾観測訓練
基本戦闘訓練	動作(射撃(空砲)と運動等)による戦闘訓練
レンジャー訓練	ロープを使っての降下訓練や、山地機動、空水路からの潜入訓練など
ヘリボン訓練	ヘリコプターを使った搭乗降下訓練

駐屯地内では、基礎的な訓練や体力づくりなど日常的な訓練が行われ、演習場内ではより実践的な訓練が行われる予定です。その一部を紹介します。



演習場訓練に抱く不安

●地元説明会と演習場視察から

駐屯地に演習場が不可欠だということを理解しても、訓練内容に伴う安全対策や防音対策に不安を抱く市民は少なくありません。

地元住民や市議会の自衛隊立地対策特別委員会の委員などが、説明会や演習場の近隣住民との意見交換会や視察などに参加し、知識と理解を深めてきました。

出された質問や意見の一部を紹介します。

Q 爆破訓練の頻度を教えてほしい。

A 平成21年度は年間2回実施しました。演習場開設後の訓練回数についてはまだ未定です。

Q 演習の周知について。

A 市役所等を通じ、事前に市民の方へ周知します。

Q 射撃訓練などで事故などが起こったことは？

A 演習場の中でも野外で射撃訓練を行うことはなく「屋内射撃場」の中だけで実施します。弾が外に飛び出た事例はないのでご安心ください。

Q 演習場が出来て水・河川の濁りはないか。

A 充分調査し、調整池等により環境に影響を及ぼさないよう対応します。

視察で騒音を体感

地元山南地区まちづくり協議会のメンバーらが、四国近隣演習場を視察しました。参加者からは「指揮者の指示のもと、きちんとした手順で訓練されていて安全性が確認できた」「爆発の音は思ったより大きくなかった」などの感想が聞かれました。



駐屯地内の 主な施設を紹介します

① 倉庫



訓練などに必要な資機材を保管する倉庫

② 体育館



隊員が、雨天時などでグラウンドが使用できない場合などに使用する屋内訓練施設

③ 生活施設合棟



隊員が生活する上で必要な食堂・浴場・医務室・売店などの施設(厚生棟)

④ 庁隊舎



鉄筋コンクリート8階建て、延べ床面積約17,000㎡。隊員が日常勤務する庁舎。3階までを事務所、4階以上は居住空間として利用

⑤ 車両整備工場



訓練などで使用する自衛隊車両の整備施設

⑥ ヘリポート



防災や災害救助などで使用するヘリコプターの離発着場

⑦ レンジャー訓練塔



ロープ訓練などのレンジャー訓練を実施する施設

その他、水のリサイクルをするなど環境にも配慮した施設となっています。



連隊長挨拶



第50普通科連隊長
1等陸佐 黒田 弘人

信頼される部隊に

香南市の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

我々第50普通科連隊の部隊・隊員は、本年3月に香南市へ移駐して参ります。既に連隊は、高知県の防衛警備、災害派遣を担任し、常時即応態勢をとっておりますが、移駐することにより、災害等に、より迅速に対応できるようになるものと考えております。

今後は、地域に積極的に融け込み、皆さまに信頼される部隊となるよう、連隊が来て良かったと言っていただけますよう、全力で取り組み、努力して参ります。

地元香南市の皆さまには、家族を含めて大変お世話になりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。